

中 学 校

平成 2 8 年度

教育研究員研究報告書

外 国 語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	3
V	研究構想図	5
VI	研究内容	6
VII	研究の成果と課題	21

研究主題

1 分間継続して会話を続けるための指導の工夫

I 研究主題設定の理由

本研究では、研究主題を「1分間継続して会話を続けるための指導の工夫」と設定した。「会話を継続する」とは、生徒が互いにつなが言葉を適切に用いながら、相手に質問をしたり自分の意見を述べたりすることで、内容に一貫性のある会話を一定時間継続することを指す。この主題を設定した理由は主に二つある。

第一に、会話を継続する力が実践的な外国語運用能力の一つとして、社会で求められていることである。「平成28年訪日外客数・出国日本人数」（日本政府観光局 2016年7月）によると、2016年上半期の訪日外客数は1,171万4千人で前年同期比28.2%増である。日本にしながら外国人と接する機会が今後も増えていくことが考えられる。さらに、グローバル化が急速に進展している社会情勢の中で開催される2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、多くの外国人が日本を訪れることが予想される。初めて接する外国人に対しても、その場で相手の発話の内容や意向をくみ取り、「相づちを打つ」「関連する質問をする」「自分の意見を述べる」など、適切な応答を瞬時に考え発話することが重要であり、それらを互いに繰り返すことでコミュニケーションが成立する。「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめについて」（文部科学省 2016年8月26日）の中で触れられているCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の考え方においても、「やり取り」は発話とその受容が交互に行われるものであることから、言語使用と言語学習の中でも重要度が高く、コミュニケーションにおける中枢的役割を果たしているとされている。そのため、「会話を継続する力」を高めることが、生徒の実践的なコミュニケーション力を高めることにつながると考えた。

第二に、生徒の実態や中学校の外国語教育の現状において表現の能力の育成が、大きな課題となっていることである。「平成27年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査（中学校）』（東京都教育委員会）において、「外国語表現の能力」の正答率は33.1%であり、他の3観点が6割～7割の正答率を達成していることに比べると大幅に低い数値である。「平成27年度英語力調査結果」（文部科学省 平成28年3月）によると、「書くこと」「話すこと」の無回答者がそれぞれ12.6%、3.0%であり、生徒の表現力に課題があること、また課題がありながらも何とか回答しようとする意欲が不足していることが考えられる。加えて、授業での活動内容に目を向けると、「即興で話す活動をしていた」と答えた生徒は49.6%で約半数にとどまっている。テストスコアにおいても、決められた回答を答えるものの正答率は高いが、与えられた情報を整理して英語をアウトプットしていく問いの正答率は低いという結果が出ている。その中で、「即興で話す活動をしていた」と答えた生徒ほど、「話すこと」のテストスコアが高い傾向が見られた。

中学校学習指導要領解説外国語編（平成20年9月）では、「話すこと」に関わる言語活動の取扱いについて「つながぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること」としており、積極的に会話を継続し発展させていく工夫の例として「会話を始めたり発展させた

りするために、相手に質問をする」と記している。このように、生徒の表現力を向上させるためには、「即興で話す活動」「会話を継続するための活動」を多く取り入れ、コミュニケーションを継続する意欲と技能を高めていく必要があると考えられる。

以上に述べたこれからの社会で求められる力と生徒の実態や中学校の外国語教育の現状における課題を踏まえ、会話を継続するための力を育成する言語活動を充実させることで、生徒の表現力を向上させ、これからのグローバル社会の中でたくましく生き抜き社会に貢献していける人材の育成につなげることができると考えた。

なお、「1分間」という目標数値については、次のような想定に基づいて設定した。生徒の1回の発話が5語から8語の文で成り立っている(主語+動詞+目的語+修飾語句)とした場合、WPM(1分あたりの発話語数)が50から80程度であるならば、およそ10回分の発話、つまり5回のやり取りに相当する。これは会話の導入、互いへの質問、自分の意見を述べることを経て「会話が継続した」という実感をもつのに十分な長さの分量であると考えられる。また、中学1年生から3年生までの学年の授業においても会話を継続させる時間の長さとして無理がないこと、帯活動として継続的に実施する場合に他の活動を圧迫しない時間配分であることを考慮した。

II 研究の視点

本研究では、会話を継続するための力を高めるために以下の点に留意した。

第一に、「1分間継続して会話を続ける」ために必要とされる要素を次の三つに整理した。「(1)相手の発言を受ける」、「(2)相手の発言に対し自分の意見や感想を述べ会話を広げる」、「(3)話の流れに沿った別の質問を返す」である。これらの力を養うために、「帯活動としてのQ&A」と「教科書の内容に関する質問を作成する活動及び意見・感想を述べる活動」を並行して行った。コミュニケーションの基礎的な力を養うために、帯活動と教科書を活用した活動を指導の両輪として授業を実施した。

第二に、Q&Aを帯活動として継続的に行うことにより質問に対する応答の速度の向上を図った。繰り返し練習を行うことで、学習した表現を定着させ、相づち表現や定型表現等を反射的に発話できるように指導した。

第三に、一人でも多くの英語科教員が共有できるように、活動と手順を簡略化し、汎用性のある教材の開発を目指した。

III 研究仮説

生徒が互いにつなぎ言葉を適切に用いながら、相手に質問したり、自分の意見を述べたりする言語活動を段階的、継続的に行うことで、会話を継続するための力が高まると考えられる。既習の文法事項や語彙を文脈に合わせ適切に選択させながら会話を継続させることによって、生徒の思考力や判断力を高め、相づちやつなぎ言葉を活用させながら相手の発言を意識した質問をさせることで、生徒の表現力を高められるだろう。

IV 研究方法

本研究では、「会話の継続」を研究主題のキーワードとし、汎用性のある指導の工夫や活動の実践を目指した。「会話の継続」とは、生徒が互いにつなぎ言葉を適切に用いながら、相手に質問したり自分の意見を述べたりすることで、内容に一貫性のある会話を一定時間継続することである。この力を身に付けることで、生徒は与えられたテーマについて1分間英語で会話を行うことができ、会話を継続した実感をもつことができると考えられる。本研究では、生徒が1分間継続して会話を続けることができることをねらいとして以下の活動を設定した。

1 「トピック・チャット」、Q&Aシート、会話を継続するための表現集、「評価、記録用紙の開発」

本研究では、決められたテーマに関して1分間英語で会話する活動を「トピック・チャット」と名付け、帯活動として継続して行った。(以下「トピック・チャット」という。)

また、活動のために生徒の助けとなる表現集「平成27年度教育研究員研究報告書(中学校外国語部会)」を参考にして新たに会話を継続するための表現集を作成し、会話を継続させるために必要な質問する力を養う指導を行った。さらに、研究の成果を検証するために生徒の変容を見取り、適切な評価のための記録用紙を開発した。

2 指導実践

目標とするトピック・チャットに必要な三つのスキルを「(1)相手の発言を受ける」、「(2)相手の発言に対し自分の意見や感想を述べ会話を広げる」、「(3)話の流れに沿った別の質問を返す」(以下「受ける」「広げる」「返す」という。)に分類し、それらを身に付けさせるための言語活動を段階的、継続的に実施した。教科書を活用した指導の中で、本研究で開発した内容を生徒の実態に応じて行った。併せて定期的にトピック・チャットを行い記録した。量的・質的な表現力の向上について生徒の変容を見取った。

〈トピック・チャットに必要な三つのスキルと指導〉

(1) 「受ける」(ペア活動において相手の発言に対し、適切に応答すること)

「受ける」力を定着させるために Q&A シートを用いて、1分間の一問一答のペア活動を本研究員全ての学校で帯活動として実施した。Q&A シートの裏面には、教科書や「平成27年度教育研究員研究報告書(中学校外国語部会)」を参考にした表現集を載せ、会話練習の際に適切に使用させ、会話を継続させる補助とした。

(2) 「広げる」(ペア活動において相手の発言を受け、それに関する意見や感想を伝えること)

ア 質問に対して、“yes/no”の応答だけでなく、自分の意見や気持ちなどを1文加えたり、教科書本文にオリジナルの1文を加えたりさせた。

イ 教科書本文の内容を自分自身のことに置き換えて、オリジナルの文をつくらせ発表させた。

(3) 「返す」(ペア活動において相手の発言を受けて、それに関する質問をすること)

ア 教科書のピクチャーカードを見て質問を考える。

イ 教科書中の文が答えになるように質問を考える。

ウ 指定した回数の質問をして、(教科書本文に関係の) ある物が何かを当てる。

エ 与えられた答え(語彙や表現)を引き出すための質問を考える。

3 評価方法

本研究で開発した記録用紙により実践を評価、記録し、量的・質的な表現力の向上について生徒の変容を見取った。チャットの中で、“Really?”や“Great.”などの感想や相づちに加えて、必ず相手に質問を返すよう指導した上で会話活動を行った。

また、“By the way”を使い話題を変えることはできる限り行わないように事前指導を行った。その理由として、“By the way”を使用し、話題を変えることによって内容に一貫性のある会話にならないこと、相手の発言を受けて質問や意見を返すことにつながらないため、質的な表現力の向上につながらないことが挙げられる。

評価については次の二つの方法によって量的・質的な表現力の変容を見取った。①教員による記録用紙の評価。記録用紙に記録された、会話を継続するために質問した回数と「広げる」ために意見や感想を述べた回数を集計し、研究開始時点から終了時点までの表現の量的変化を把握した。②習熟度別に生徒を無作為に数名抽出し、研究開始時の会話の内容と研究終了時の会話の内容を記録することによって表現の質的变化を把握した。また、記録用紙に記述された「言いたかったけれど言えなかった」表現がどのように変容したかを見取った。

V 研究構想図

【外国語科の目標】

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

平成 28 年度 東京都教育研究員部会共通テーマ
「思考力・判断力・表現力等をも高めるための授業改善」

〔現状と課題〕

＜実践的な外国語運用能力＞

- ・訪日外国人の増加、2020年オリンピック・パラリンピックの開催による外国語運用能力の必要性
- ・国際的な基準CEFRにおける「やり取り」の重要性（次期学習指導要領に向けた審議）

＜生徒の英語力＞

- ・「外国語表現の能力」の正答率は 33.1%「平成 27 年度 『児童・生徒の学力向上を図るための調査（中学校）』（東京都教育委員会）

＜即興的活動・会話の継続＞

- ・「即興で話す活動をしていた」と答えた生徒は 49.6%（文部科学省 平成 28 年 3 月）
- ・中学校学習指導要領外国語（「つなぎ言葉を用いるなどいろいろな工夫をして話を続けること」（文部科学省 平成 20 年 3 月）

【目指す生徒像】

- つなぎ言葉を適切に用いながら、相手に質問したり、自分の意見を述べたりできる生徒
- 相手の意向を理解し、その場で適切な応答ができる生徒
- 1 分間継続的にコミュニケーションを行うことができる生徒

【研究主題】

1 分間継続して会話を続けるための指導の工夫

【研究仮説】

生徒が互いにつなぎ言葉を適切に用いながら、相手に質問したり、自分の意見を述べたりする言語活動を段階的、継続的に行うことで、会話を継続するための力が高まると考えられる。既習の文法事項や語彙を文脈に合わせ適切に選択させながら会話を継続させることによって、生徒の思考力や判断力を高め、相づちやつなぎ言葉を活用させながら相手の発言を意識した質問をさせることで、生徒の表現力を高められるだろう。

【研究内容】

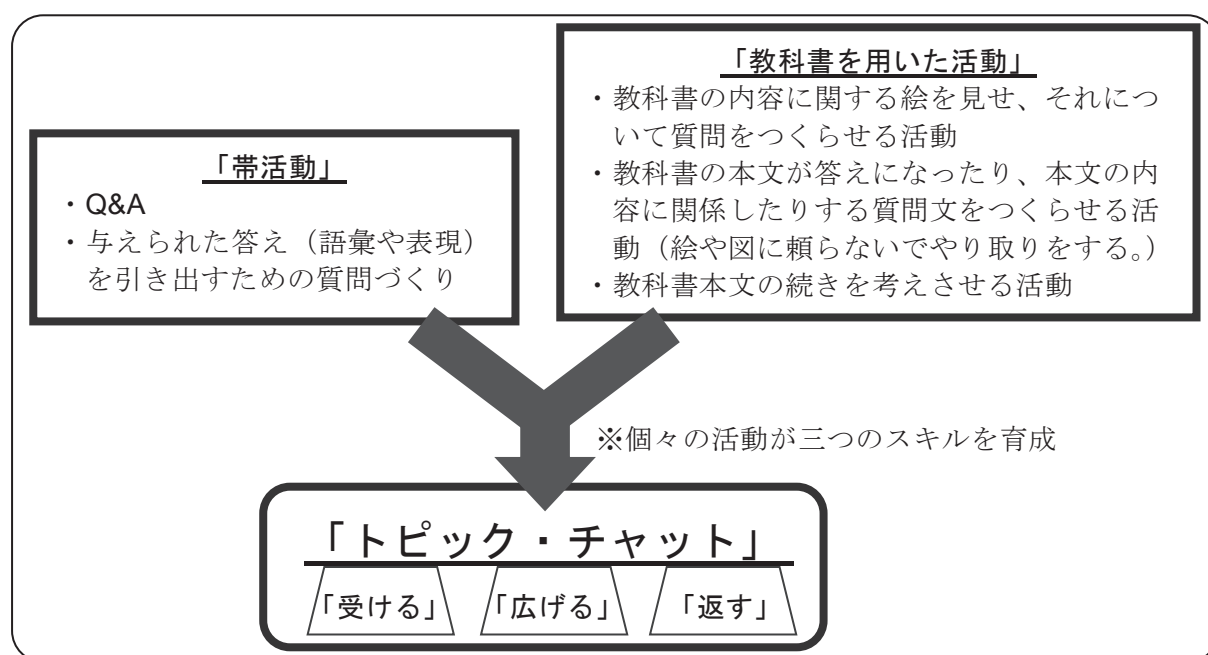
- 「トピック・チャット」、「Q&A シート」、「表現集」、「評価・記録用紙」の開発
- 「トピック・チャット」に必要な三つのスキルと指導
- 教員による評価（記録用紙による量的・質的な変容の記録）

研究の成果と課題

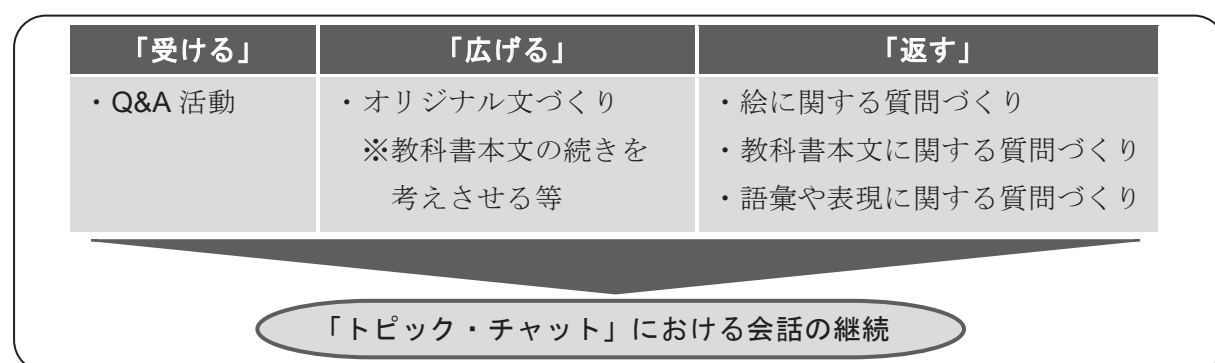
VI 研究内容

1 分間会話を継続させるための指導を工夫する際、どの学校においても簡単に実践できるような、汎用性のある指導方法の工夫を目指した。本研究では会話を継続させる力育てるための活動として「トピック・チャット」を設定した。加えて、「トピック・チャット」に必要とされる三つのスキル「受ける」「広げる」「返す」を育成するために、授業における「帯活動」と「教科書を用いた活動」を設定した。「帯活動」においては、会話の即興性、瞬発力を育てるための Q&A を、「教科書を用いた活動」においては、教科書本文に関する質問、意見、感想を述べるなど、会話の内容を深めるための言語活動を指導の軸とした。

「トピック・チャット」と「帯活動」、「教科書を用いた活動」の関係は【図1】に、三つのスキルを育成する諸活動と「トピック・チャット」の関係は【図2】に示すとおりである。



【図1】「トピック・チャット」と「帯活動」、「教科書を用いた活動」の関係性



【図2】「トピック・チャット」に必要とされるスキル別言語活動

1 「トピック・チャット」

相手の発言に対して適切に応じ（「受ける」）、相手の発言に関する意見や感想を伝え（「広げる」）、関連する話題について相手に質問する（「返す」）ことで会話を継続することを目指す

す活動である。以下に「トピック・チャット」の会話例を示す。

(1) 「トピック・チャット」の例

- ① オーストラリアの文化について学習したあと、“Do you want to go to Australia?”というトピックでチャットをさせた。

S1 : Do you want to go to Australia?

S2 : Yes, I do. How about you?

S1 : I want to go there too.

S2 : Why do you want to go there?

S1 : Because I want to see koalas, and I like to see many beautiful stars.

S2 : I see. I want to go to the Sydney Opera House. ... (以下、数ターン継続)

- ② 職業体験について、「to 不定詞の名詞的用法」を学習した後、“What do you want to be in the future?”というトピックでチャットをさせた。

S1 : What do you want to be in the future?

S2 : I want to be a nurse.

S1 : Why do you want to be a nurse?

S2 : I like to help sick people. How about you ?

S1 : I want to be a soccer player. I like soccer very much.

S2 : Who is your favorite soccer player? ... (以下、数ターン継続)

(2) 「トピック・チャット」のルール

- ① ペア1組に、1点のカード○枚と2点のカード○枚1セットを配布する。

(○は生徒の状況に応じて設定する。検証授業2では基石を使い、黒を2点、白を1点とした。)

- ② 教師により与えられたテーマ(質問)から会話を始める。

- ③ ペアのどちらから会話を切り出してもよい。

- ④ ③の質問に応答する形でやり取りを始め、1分間会話を継続させる。

- ⑤ 言えた英文により、1点又は2点のカード(基石)を取る。取り方は以下のとおり。

- ・ 疑問文で返したとき(“How about you?”、“And you?”なども含む)【2点】
- ・ “yes/no”で答えたとき・更に自分の気持ちなどを加えた文を言えたとき・相づちを打てたとき【1点】

- ⑥ 実際の会話における得点の計算方法は以下のとおり。

(例) トピックが“Do you want to go to Australia?”のとき。

S1 : Do you want to go Australia? (最初の文は得点に入らない。)

S2 : Yes, I do. 【1点】 How about you? 【2点】

S1 : I want to go there too. 【1点】

S2 : Why do you want to go there? 【2点】

S1 : Because I want to see koalas, and I like to see many beautiful stars. 【1点】

S2 : I see. 【1点】 I want to go to the Sydney Opera House. 【1点】

このとき、S1は2点、S2は7点となる。1分間終了した時点での点数を数え、2点、1点

がそれぞれいくつあるか記録用紙に記入する。さらに、この会話で（実際には言えなかったが）言いたかったことを書かせる。教師は生徒が言いたかったが言えなかった表現や、どのように表現したらよいか分からなかった表現等の言い方を指導し、次のチャットに生かせるようにする。

以下に示すのは、本研究員が各学校で使用した質問例である。

【第1学年】

教科書	単元	質問
NEW CROWN (三省堂)	Lesson 3 I Like Soccer	What Japanese food do you like?
COLUMBUS 21 (光村図書)	Skit Time1 ペット	Do you have any pets?

【第2学年】

教科書	単元	質問
NEW CROWN (三省堂)	Lesson 5 Uluru	Do you want to go to Australia?
TOTAL ENGLISH (学校図書)	Lesson 5 Career Experience	What do you want to be in the future?

【第3学年】

教科書	単元	質問
SUNSHINE (開隆堂)	Program 7 What Is the Most Important Thing to You?	What is the most important thing?
NEW CROWN (三省堂)	Lesson 5 Places to Go, Things to Do	What is the best movie that you've ever watched?

「トピック・チャット」実施後には、以下に示す記録用紙に記録させた。

チャット評価用紙

1	日付	トピック	パートナーの名前	会話ポイント	
				×2 計 ×1	
これが言いたかった！					
2	日付	トピック	パートナーの名前	会話ポイント	
				×2 計 ×1	
これが言いたかった！					
3	日付	トピック	パートナーの名前	会話ポイント	
				×2 計 ×1	
これが言いたかった！					
4	日付	トピック	パートナーの名前	会話ポイント	
				×2 計 ×1	
これが言いたかった！					
5	日付	トピック	パートナーの名前	会話ポイント	
				×2 計 ×1	
これが言いたかった！					

2 「帯活動としての Q&A」

Q&A シートを授業の始めの帯活動として使用する。生徒はペアになり、まず、1 分間、一方の生徒が質問を行い、他方の生徒がそれに答える。次の 1 分間に役割を交代し、再び問答を行う。この活動は Q&A シートに書かれている質問を尋ねること及びその質問に的確に答えることに注目したものであり、即興性はない。「相手に質問する」、「相手の質問を理解し答える」ということに慣れ、質問と回答の速度を上げるための活動である。なお、Q&A シートの会話文の例は、生徒の習熟度に合わせ適宜変更される。「トピック・チャット」で生徒に使用させたい表現は、意図的に Q&A シートに組み込み、活用の場面を多く設定する。また、教科書の内容理解や自己表現活動を行う際に役立つ表現等を Q&A シートに追加する。加えて生徒の学習の様子に応じ、Q&A シートの裏面に教科書や「平成 27 年度教育研究員研究報告書（中学校外国語部会）」を参考にした参考表現集を掲載し、「トピック・チャット」の際に使用させ、会話を継続させる補助とした。

【Q&A シートの例】

扱う英文や表現等は各学校の実態や生徒の習熟に応じて変化させるが、英問英答で行う形式は、本研究員全員で統一して実施した。

Q&A シート for the 2 nd graders	
Class _____ No. _____ Name _____	
ココで折る	
Questions	Answers
1. Do you like sports?	Yes, I do. / No, I don't.
2. Do you like English?	Yes, I do. / Yes, I love it. / Not so much. / No, I don't.
3. What's your favorite food?	I like ramen very much.
4. What animal do you like?	I like dogs. They are cute.
5. What time do you get up?	I get up at seven every morning.
6. What club are you in?	I'm in the basketball club.
7. Can you play the piano well?	Yes, I can. / No, I can't.
8. How was your summer vacation?	It was great / good / so-so / not so good.
9. Did you do your homework last night?	Yes, I did. / No, I didn't.
10. What did you do last weekend?	I visited my grandparents in Tokyo.

※合計 20 問程度の会話例を掲載。学習の進度に従って、内容は適宜変更する。

Q&A シートの裏面には「Topic Chat のための表現集」を掲載する。

Topic Chat のための表現集

相手の発言を「受ける」表現

◆興味を示す	Uh-huh. / Yeah. / OK. / Yes. / Is that so?
◆賛成・同意を伝える	Oh, yes. / I think so, too. / Me, too. / Me, neither. I agree. / That's true. / Right.
◆反対であることを伝える	I disagree. / I don't think so.
◆自分が理解していることを伝える	I see. / I get it. / I understand.
◆驚き・意外性を示す	Really? / Wow! / No kidding. / No way. / Are you sure? Seriously? / Unbelievable.
◆喜び・感動を示す	Wow. / That's nice. / Cool. / How exciting. / Interesting.
◆エコーを返す	※相手が言ったことを、主語を変えてそのまま返す。 例) A: I like tennis. B: Oh, you like tennis.

会話を「広げる」表現

◆意見や思いを述べる	I think / I don't think / I want to In my opinion,
◆相手の発言へのコメントを述べる	I'm happy for you. / Good for you. / You're lucky. Sounds good. / Good idea. / Good luck. / Never mind. I didn't know that. / I have no idea.
◆自分の感情を伝える	I'm ... (I was ...) happy / unhappy / interested / sad / tired / excited scared / surprised / disappointed
◆物事の感想を伝える	It's ... (It was ...) delicious / fun / interesting / cool / great exciting / boring / wonderful
◆話を後ろにつなげる	So ... / Because ... / Then ...

相手に「返す」表現

◆より詳しい情報をたずねる	What? / Who? / Who with? / When? / Where? / Which? Why? / Why not? / How? / How many? / How long?
◆感想をたずねる	How was it? / How did you like it?
◆更に情報を求める	What else? / Anything else? / And then?
◆分からないことについて たずねる	What do you mean? / What does it mean? / What's...?
◆相手の理解を確認する	Do you understand? / Are you with me?
◆具体例をたずねる	For example?
◆同じ質問を相手に返す	How about you? ※How about you?の前には、必ず自分の意見を伝えましょう。

その他の便利な表現

◆言葉につまったとき	Well... / Um... / Er... / Let me see... / Let's see... ... you know ...
◆相手に聞き返すとき	Pardon? / Sorry? / Excuse me?
◆話をまとめるとき	Anyway... / I mean... / The thing is ...
◆話を切り出すとき	You know what? / You know ... / Speaking of ... By the way ... ※話題はできるだけ変えないようにしましょう。
◆相手に質問をしたい・ 詳しく知りたい	I have a question. / Tell me more.
◆会話を終える	Nice talking with you. / See you. / Thank you. Have a nice day. / Talk to you soon.

3 教科書の内容に関する質問をつくらせる活動及び意見・感想を述べさせる活動

本文の内容を理解させる際に、生徒に質問を考えさせ、他の生徒や教師がそれに答える活動を実施した。教師からの質問に生徒が答えるという一般的なやり取りに比べ、生徒自身が質問することで会話を継続する力に資するねらいで活動を行った。

- (1) 教科書の内容に関する絵を提示し、それについての質問をつくらせた。複数の質問をすることで、求める答えの手掛かりを得られるような活動を意識した。

(例) オーストラリアの伝統工芸品であるブーメランの写真を提示

(写真にはいくつかベタ塗りが施され、生徒はブーメランかどうか分からない。)

S1 : Is it food?

T : No, it isn't.

S2 : Is it an animal?

T : No, it isn't.

S3 : Where do they use it?

T : They use it outside.

S4 : When do they use it?

T : They use it when they want to catch animals. It's for hunting.

S5 : Is it a boomerang?

T : That's right!

- (2) 教科書中の文が答えになるような質問をつくらせた。中学校学習指導要領外国語編（文部科学省 平成20年3月）において示されている「会話を始めたり発展させたりするために、相手に質問をする」ための力を付けるため、「英語で質問をつくる」ことに注目して活動を行った。これは「質問をつくる」ための練習であり、即興性は含まない活動である。

(例) 教科書から各トピックのテーマに関する英文を選んで生徒に提示し、その英文が答えとなるようなやり取りを考えさせる。

【提示する英文】 NEW CROWN 2（三省堂）より

Iwate is the largest prefecture in Tohoku.

【想定されるやり取り】

S1 : What prefecture is the largest in Tohoku?

S2 : Iwate is the largest prefecture in Tohoku.

S3 : Can you tell me about Iwate prefecture?

S4 : Of course. Iwate is the largest prefecture in Tohoku.

4 「Plus One Dialogue」

教師と生徒のインタラクションの中で、“yes/no”の応答だけでなく、自分の意見や気持ちなどの1文を加えさせたり、教科書の本文に生徒自身が考えたオリジナルの1文を加えさせたりした。

(例1) インタラクションの中で1文加えさせる。

T : Do you like any sports?

S1 : Yes, I do.

T : Plus one.

S1 : Ah... I like baseball. I watched “*Nihon Series*” yesterday on TV.

T : I see. Which team do you like?

S1 : I like... (以下、数ターン継続)

(例2) 教科書の本文に1文加えさせる。 NEW CROWN 2 (三省堂) より

K : It's almost noon. I'm going to leave soon.

P : Are you? Why?

K : I have a *kendo* test. Are you going to stay until the final talk?

P : Yes, I am. I'll get the handouts for you.

K : Thanks.

P : It's nothing. Please ask me if you need any help.

5 検証授業1 (第2学年)

(1) 使用教科書 NEW CROWN 2 Lesson 5 “Uluru”

(2) 単元の目標

ア オーストラリアの自然やアボリジニの考え方について学んだことを生かし、**Uluru** に対する自分の意見を根拠とともにスピーチで話すことができる。

イ オーストラリアや **Uluru** に関する文化的事項をトピックとして、1分間程度会話をすることができる。

ウ オーストラリアや **Uluru** に関して読まれたり書かれたりした内容を、正しく理解することができる。

エ [主語+動詞+間接目的語+直接目的語] 及び [主語+**be** 動詞以外の動詞+形容詞] の文構造を理解し、これらを用いて英文を話したり書いたりできる。

(3) 単元の評価規準

	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化につ いての知識・理解
評価 規準	①分からない部分も推測するなどして、英語を聞き続けようとしている。 ②書かれた内容を繰り返して読んだり、読み返したりして、英語を読み続けようとしている。 ③ペアでの活動で会話を継続しようと工夫したり、プレゼンテーションにおいて間違いを恐れず積極的に話そうとしたりしている。	① Uluru に関する自分の意見をまとめ、根拠をもって話すことができる。 ②英語の質問に対して適切に応答し、つなぎ言葉や質問等を有効に使って会話を続けることができる。 ③学習した文構造を用いて、自分の意見を話したり、書いたりすることができる。	①教科書本文の内容を聞いて、正しく理解することができる。 ②教科書本文の内容を読んで、正しく理解することができる。	①[主語+動詞+間接目的語+直接目的語]及び[主語+ be 動詞以外の動詞+形容詞]を用いた文の構造を理解している。

(4) 指導観

ア 単元観

この単元では、オーストラリアを題材に使いながら旅の楽しさや地域文化についての理解を深め、他国の言語や文化を尊重する態度を育む。観光地としてのオーストラリアを楽しむことと、その地域に住む人の考え方を理解することの重要性に気付かせ、自分の意見を根拠とともに話せるように指導を行う。

言語材料としては[主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語]と、[主語＋be 動詞以外の動詞＋形容詞]を取り扱う。導入では身近で適切な言語の使用場面を考え、教師と生徒、生徒同士の言語活動を通して表現の定着を図る。最終的にこれらの表現を用いて自己表現できることを目標とする。

イ 教材観

教科書本文の導入は、写真や映像を用いて行う。英語でオーラル・インタラクティブをしながら、生徒に場面や本文の内容を類推させたりして、本文を読む前に、その題材について生徒のもつスキーマを活性化させる。これから学習する内容に興味をもたせたり、また従来自分が思っていたことが本当に正しいのかななどの疑問を起こさせたりすること等を念頭におきながら、生徒にできるだけ多くのインプットを与える。

新出単語は、フラッシュカードを用いて導入する。様々なパターンで練習を行わせ、飽きさせない工夫をする。文構造については、[主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語]と[主語＋be 動詞以外の動詞＋形容詞]を含むオーストラリアについての英文を繰り返し提示し、聞くこと・読むことを通じて、内容を理解する機会をつくる。

教科書本文の指導においては、オーストラリアについての基礎的な情報だけでなく、文化的な側面にも注目しながら指導する。USE-Read では、教科書の本文にはない情報も与えながら、オーストラリアの先住民アボリジニと Uluru との関係を読み取らせていく。最終的に個人の意見をスピーチできるように段階的な指導を工夫する。

(5) 単元の指導計画 (10 時間扱い)

	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法
第1時	・単元全体の導入 ・オーストラリアの気候や動物、位置等の理解	ア-① ア-② 観察
第2時	・Q&A ・トピック・チャット ・[主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語]の文構造の理解	イ-② エ-① 観察、ワークシート
第3時	・Q&A ・トピック・チャット ・Lesson5 Get 1 の本文を扱った活動 (内容理解・音読等)	ウ-① ウ-② エ-①
第4時	・Q&A ・トピック・チャット ・[主語＋be 動詞以外の動詞＋形容詞]を用いた文構造の理解	イ-② エ-① 観察、ワークシート
第5時 (本時)	・Q&A ・トピック・チャット ・Lesson5 Get 2 の本文を扱った活動 (内容理解・音読等)	ア-③ ウ-②

第6時	<ul style="list-style-type: none"> ・Q&A ・トピック・チャット ・Use Read 5 グループワーク「アボリジニの簡単な歴史について英文の読み取り」 	イ-② ウ-② ワークシート
第7時	<ul style="list-style-type: none"> ・Q&A ・トピック・チャット ・Use Read 5 グループワーク「アナング族の生活とウルルに対する思いについて英文の読み取り」 	ア-② イ-② ワークシート
第8時	<ul style="list-style-type: none"> ・Q&A ・トピック・チャット ・Use Read 5 「ウルルに登るか登らないか」についてスピーチ原稿の作成 	ア-② イ-② ワークシート
第9時	<ul style="list-style-type: none"> ・Q&A ・トピック・チャット ・Use Read 5 スピーチ発表 	イ-① イ-③
第10時	<ul style="list-style-type: none"> ・Q&A ・トピック・チャット ・単元のまとめ 	ア-③ エ-①

(6) 年間指導計画における位置付け

一学期までに学習した過去形や未来表現、[There+be 動詞] や動名詞に加えて、この単元で[主語+動詞+間接目的語+直接目的語] と[主語+be 動詞以外の動詞+形容詞] の文構造を学ぶことにより生徒の表現の幅を広げることを目指す。ここで身に付けた表現力を、単元最後で行うスピーチで生かせるようにする。

(7) 本時

ア 本時の目標

- (ア) オーラル・インタラクションやペアワークを通じて本文の内容を理解し音読できる。
- (イ) オーラル・インタラクションの中で、教師の問いに対して質問をつくり出すことができる。
- (ウ) トピック・チャットで会話を継続するために、質問したり、相づちを打ったりしながら、適切に応答することができる。

イ 本時の展開

指導過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
1.Greeting (1 min.)	・挨拶する	・英語で挨拶を行い、英語で言語活動を行う雰囲気をつくる。	
2. Warm-up (12 min.)	<ul style="list-style-type: none"> ・キクタン® ・Q&A ・トピック・チャット 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語の意味を素早く言わせる。 ・答える側はハンドアウトを見ない。また、答えに1文付け加える。 ・教師が与えたトピックでチャットを行う。既習事項を意図的に入れる。カードを使ってポイントを与え、会話の質と量を可視化する。 	
3. Review (4 min)	・[主語+be 動詞以外の動詞+形容詞] の文構造を復習する。	・スライドを見せながら生徒に写真の様子を言わせていく。	

<p>4. Introduction of Lesson 5 Get 2 (12 min.)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアに関するものの写真が隠されたスライドを見せ、それについて英語で質問する。 ・写真についての Q&A の後、教師とのインタラクションしながら本文の内容を理解する。 ・Reading Point “When do they use boomerangs?” に注目し、本文を黙読する。 ・フラッシュカードで新出語句を学習する。 ・CD で本文を聞く。 ・本文の分かりにくい部分を説明する。また辞書で sound を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、ヒントを出しながらペアと同数の質問をつくらせる。 ・なるべく多くの生徒が答えられるように生徒個人の英語の習熟度と質問内容の既習、未習により、単語のみで答えても正解とする場合や文で答えるように要求するなど正解の受容度をコントロールする。 ・全て話してしまわずに、Reading Point を残して、黙読させる。 ・初見で単語を読む力を付けるために、最初は生徒のみで単語を発音させる。 ・CD を聞きながら本文を指で追わせる。 ・見付けたら手を挙げさせ、sound の動詞の意味を言わせる。 	<p>ウ-② (観察)</p>
<p>5. Reading Aloud (8 min)</p>	<p>①Choral Reading ②Role Reading ③Parallel Reading ④Buzz Reading ⑤Pair Reading</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発音や読みにくい単語などは部分的に取り上げて読めるように指導する。変化のある繰り返して、飽きさせないようにする。 	
<p>6. Practice of Skit (9 min.)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文の続きを考えてスキットをつくる。 ・変える部分が決まったら、Read and Look up で練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文の内容に加えて、更にもう一往復の質問と答えを考えさせる。 ・Read and Look up で練習させる。 	
<p>7. Presentation of Skit (3 min.)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアで2ペアを募り、発表させる。 	<p>ア-③ (観察)</p>
<p>8. Consolidation (1 min.)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題の提示 ・終わりの挨拶をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題の音読の回数を指示する。 	

(8) 授業観察の視点

- ・ Q&A 活動で使用した質問を「トピック・チャット」で用いるなど、生徒が言語活動のつながりを有効に活用できていたか。
- ・ 「トピック・チャット」の活動において、生徒が学習した表現を用いながら会話をしていったか。相づちを打ったり、質問をしたりしながら、会話を継続しようとしていたか。
- ・ 教科書の本文について学習する過程で、生徒が質問する力を身に付けていたか。

(9) 検証授業における成果と課題

ア 検証授業における成果

Q&A の活動をとおして、質問の尋ね方や答え方を継続的に練習することによって、様々なパターンの質問への応答速度が速くなった。その際、会話を継続するための filler(Well, Um... , Let me see.), reaction(Really? Pardon? Me too.), echo (A: I like baseball.

B:Oh, you like baseball.)などの会話をつなぐ技術を使うように指導した。始めは教室内でも2～3人の生徒しかつなぎ言葉を使うことができず、一定時間が経過すると沈黙の時間が流れてしまったりすることもあった。しかし指導を重ねることで、生徒がつなぎ言葉の使用に慣れてくると、授業観察の結果、教室内の半分程度の生徒がつなぎ言葉を使って会話を継続できるようになっていることが分かった。

チャットではカードを使いながら自分の発話量を質問とそれ以外に分けて可視化しながら話をさせている。そのことにより、自分の発話において質問が多いのか、相手の質問に答えることが多いのかを自覚する助けとなっている。生徒は質問することが少ないと分かると、もっと質問をしようと思掛けるようになった。また、一度のチャットが終了した際には全体で質問を受け付け、「言いたかったけれど言えなかった表現」などを取り上げて、共有するようにした。その上でもう一度違うペアで話をさせると、使える表現が増え、会話を更に長く継続させることができるようになった。

イ 検証授業における課題

Q&A 自体はインプット活動として、会話を充実させるための質問力向上に必要な活動ではあるが、その後のチャット活動となかなか結び付きが見られないことが課題である。具体的にはチャットをしている時の質問の中に、Q&A で練習した質問が出てこないことである。現実の会話になった時に、練習した質問をとっさに引き出して活用するという場面は、検証授業の段階では見られなかった。改善策として、チャットのトピックを示した段階で、Q&A で使用したハンドアウトから使えそうな質問を探させた。その上でチャットをさせると Q&A で練習した質問をチャットでも使える生徒が増えた。また、質問力を高める活動として、教科書を使って行える活動を2種類実施した。検証授業の時点では、教科書のトピックに関係する写真を用意し、それが何であるかを隠し、生徒から質問させて当てさせる活動と、教科書の対話文の続きとして、もう1ターンのやり取りを考えさせ書かせる活動である。これらの活動により生徒の質問力が高まったのかどうか今後検証をしていく必要がある。



6 検証授業2 (第2学年)

(1) 使用教科書 TOTAL ENGLISH 2

単元 Lesson 5 “Career Experience”

(2) 単元の目標

ア 職場体験学習に関して書かれた異なる形態の文（会話文や日記、手紙など）を聞いたり読んだりして、内容を正しく理解することができる。

イ [主語+動詞+to 不定詞]を含んだ文の構造や3用法（名詞的、副詞的、形容詞的用法）について理解し、運用することができる。

ウ 将来したいことや仕事、そのためにすることやすべきことなどをトピックとして、1分間話することができる。

(3) 単元の評価規準

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
評価規準	①英語を聞いたり、読んだりして、内容を理解、推測しようとしている。 ②会話活動において、つなぎ言葉や質問等を用いるなどして、会話を継続しようとしている。 ③間違えることを恐れず、自分の考えを話したり、書いたりしている。	①正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて話したり、音読したりすることができる。 ②質問に対して適切に応答し、つなぎ言葉や質問等を有効に使って会話を続けることができる。 ③to不定詞を含む既習の文構造を用いて、自分の意見など正しく話したり、書いたりすることができる。	①語句や表現、文法事項などの知識を活用して、教科書本文の内容を正しく聞き取ったり読み取ったりすることができる。 ②話された内容や書かれた内容から、相手の気持ちや意向を理解することができる。	①本文に出てくる語彙や語句、表現について理解している。 ②不定詞を用いた文構造を理解している。 ③英語での日記の書き方や手紙文の書き方について理解している。

(4) 指導観

ア 単元観

この単元では、職場体験学習を題材に扱いながら、自分の将来について考え、働くことや社会に関わることの素晴らしさや大変さを考えさせる。職場体験は多くの中学校で実施されている活動である。こうした実際の活動を振り返って、自分が考えたことや感じたことを英語で表現する場面を設定したい。

言語材料としては〔主語＋動詞＋to不定詞〕を取り扱う。身近で適切な言語の使用場面を考えて導入し、言語活動を通して表現の定着を図る。不定詞の副詞的用法や形容詞的用法ではその修飾関係に注目させ、文構造を理解させる。

イ 教材観

教科書本文の導入は、ピクチャーカードを用いて、英語でオーラル・インタラクションをしながら行う。オーラル・インタラクションでは、既習事項を繰り返し使いながら、生徒とやり取りを行うことで、生徒の発話を促す。生徒同士で質問しあうことで、会話を発展させる力を育成することを目指す。自分の意見を述べる活動として、教科書本文を元にしたワークシートを用いて、表現力の向上を図る。

新出単語は、フラッシュカードを用いて指導する。語彙の指導においては、辞書を活用し、派生語などに着目し、使用できる語彙を増やすことを目指す。

(5) 年間指導計画における位置付け

今までに学習した過去形や未来表現に加えて、この単元で〔主語＋動詞＋to不定詞〕を学ぶことにより、生徒の表現の幅を広げることを目指す。ここで身に付けたto不定詞を使った表現を、単元の最後のスピーチで生かせるようにする。



(6) 単元の指導計画（8時間扱い）

	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法
第1時	<ul style="list-style-type: none"> Q&A 活動 to 不定詞（名詞的用法）の文構造を理解する。 to 不定詞（名詞的用法）の文を用いて、「～したい」とを表す英文をつくる。 	イ-② エ-② 観察・ワークシート
第2時 （本時）	<ul style="list-style-type: none"> Q&A 活動 本文の内容〔Lesson 5A〕を理解し、自分の事に置き換えた英文を書く。 トピック・チャット 	ア-① ア-② イ-③ ワークシート
第3時	<ul style="list-style-type: none"> Q&A 活動 ・トピック・チャット to 不定詞（副詞的用法）の文構造を理解する。 to 不定詞（副詞的用法）の文を用いて、「～するために...に行く」を表す英文をつくる。 	イ-② エ-② 観察・ワークシート
第4時	<ul style="list-style-type: none"> Q&A 活動 本文の内容〔Lesson 5B〕を理解し、自分の感想を述べる。 	イ-① ウ-① ワークシート イ-③
第5時	<ul style="list-style-type: none"> Q&A 活動 to 不定詞（形容詞的用法）の文構造を理解する。 to 不定詞（形容詞的用法）の文を用いて、形容詞的用法を用いた英文をつくる。 	イ-② エ-② 観察・ワークシート
第6時	<ul style="list-style-type: none"> Q&A 活動 本文の内容〔Lesson 5C〕を理解し、登場人物に手紙を書く。 	イ-① イ-③ ワークシート ウ-②
第7時	<ul style="list-style-type: none"> Q&A 活動 ・トピック・チャット 〔まとめ〕 Review (pp.74-75) を用いて、表現のまとめを行う。 	エ-① ワークシート ア-③ エ-③
第8時	<ul style="list-style-type: none"> 自分の行きたい国、そこでしたいことについて、簡単にスピーチする。 	イ-① ア-③ イ-③ 観察

(7) 本時

ア 本時の目標

- (ア) [主語+動詞+to 不定詞] を用いた文を理解し、使用することができる。
- (イ) オーラル・インタラクションから本文の内容を理解する。
- (ウ) チャット活動で会話を継続するために話題を広げたり、リアクションをとったりしながら、適切に自分の意見を言うことができる。

イ 本時の展開

指導過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
1.Greeting (1 min.)	・挨拶する		
2. Warm-up (5 min.)	・Q&A 活動	・音楽時計を利用し、和やかな雰囲気でするようにする。	

3. Review (5 min.)	<ul style="list-style-type: none"> ・〔主語＋動詞＋to 不定詞〕の文構造の復習 ・Lesson5A ワークシート使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書のアクティビティを用いて、将来なりたい職業についてのインタビュー活動を行わせる。 	
4. Introduction of Lesson 5 part A (15 min.)	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクチャーカードやオーラル・インタラクションを基に本文の内容を理解する。 ・黒板に貼ってあるピクチャーカードを用いて、指示された疑問詞を使用した質問文をつくり、生徒同士で教科書の内容について Q&A 活動を行う。 ・フラッシュカードで新出語句を学習する。 ・CD で本文を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく多くの生徒が答えられるように、生徒の習熟度に合わせて問いを工夫する。生徒のやり取りの中で、既習事項を確認していく。 ・初見で単語を読む力をつけるために、最初は、生徒のみで単語を発音させる。 ・強弱やイントネーションに気を付けながら聞かせる。 	ア-① (観察)
5. Reading Aloud (10 min.)	<ul style="list-style-type: none"> ①Choral Reading ②Paced Reading ③Buzz Reading ④Pair Reading 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語などは部分的に取り上げて読めるように指導する。なるべく多くのパターンで音読練習を行い、適切な声量や明瞭さで音読することができるように指導する。 	
6. Chat Time (10 min.)	<p>「将来なりたい職業」というトピックでチャットを行う。</p> <p>チャットの最初の質問文で不定詞を用いた文を使うように指示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Warm-up で使用した Q&A シートから表現を使えるように支援する。 	ア-② (観察) イ-③ (ワークシート)
7. Consolidation (5 min.)	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題の提示 ・本文内容ワークシート配布 ・終わりの挨拶をする。 		

(8) 授業観察の視点

- ・教科書本文の Introduction における会話活動がチャットとつながるものとなっていたか。
- ・教科書本文の Introduction において、本文内容に関連した質問をつくったり、答えたりすることができたか。
- ・チャット活動において、学習した表現を用いて会話していたか。相づちを打ったり、質問をしたりしながら、会話を継続しようとしていたか。

(9) 検証授業における成果と課題

ア 検証授業における成果

Q&A の活動を継続的に練習することによって、質問に対して適切に答えることができるようになり、“yes/no”で答えられる単純な質問に対しては、繰り返しの表現を用いながらも、自分の意見を加えることができるようになった。この成果はチャットの中でも生きており、自分の使える質問を積極的に行うようになった。本検証授業に至るまでは、会話全体の中で自分がどの程度英語を使用しているか認識していない生徒が大半を占めていた。基石を使っ

て自分の発話量を可視化し、教師が目標数値を設定することで、生徒は質問だけでなく、相づちや相手の発言の繰り返しを用いて自分の気持ちを表現し、発話量を意識するようになった。

生徒同士がやり取りを行う教科書内容のオーラル・イントロダクションにおいて、Q & A 活動の導入以前は、“Do you know~?”、“Is this~?” など単純な質問でのやり取りにとどまっていたが、Q & A 活動の定着により、生徒は疑問詞を用いた質問を作成するようになった。しかし、語彙を指定しないやり取りでは、生徒が使用する疑問詞が **who**、**what** など使いやすいものに偏る傾向があり、話題が教科書の題材から離れてしまうことがあった。そこで、本検証授業では、使用する疑問詞を指定した結果、会話内容が教科書の題材に即したものになった。実際にやり取りを行っていない生徒も、教室内で他の生徒のやり取りを聞くことで、教科書内容の理解を深めている。

チャット活動では、当初は表現集の中から、テーマに沿った文を選んで会話をしていた生徒が大半であったが、検証授業時点で教科書内容理解に用いた質問文を使用する生徒も増えており、更に継続して Q & A 活動やオーラル・イントロダクションを行うことがチャット内容の発展及び相手の発話を引き出す質問文作成能力の育成につながっていくと考えられる。

イ 検証授業における課題

Q & A でのインプット、チャットでのアウトプット、教科書内容理解での質問文作成など、質問力を上げるための活動は一定の効果を上げているが、会話の中で相づちや繰り返しなどの技術を活用する継続性をもった会話になると、練習した質問がとっさに引き出せないことが課題である。その原因として挙げられるのは、「広げる」活動に当たる相手の発言を受けての自分の意見や感想を伝える活動が不足していることであると思われる。チャットでの活動を振り返ると、話の流れの中で自然に会話を「広げて」いるケースは少なく、多少の食い違いがあっても自分の使用できる表現を用いて会話を継続させていく場面が見られた。継続した自然な会話のためには、質問したい内容に対してどんな疑問詞を用いるのか判断することが必要である。

会話の流れをつくる WH 質問を作成する力を付けるために、質問に対して自分の意見や気持ちなどを 1 文加える活動や、教科書本文にオリジナルの 1 文を加えて教科書の内容を自分自身のことに置き換えた文を作る活動を行うことが必要である。これらの活動を、教科書内容の確認と合わせて継続して行うことにより、会話の流れを考えて発話する力が育成されると考えられる。

VII 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) Q&A シート、会話を継続させるための表現集、「教科書の内容に関する質問を作成する活動及び意見・感想を述べる活動」の開発と実践

「会話を継続する力」を養うための準備段階として、Q&A シートを開発した。本研究では、生徒がより会話を継続させられるように、話題の提示だけをして会話させるのではなく、話題に即した疑問文を与えることで会話の切り出し方を示した。帯活動として継続的に Q&A

シートを活用することにより、会話の糸口になる相手への質問ができるようになることを目指した。この活動をとおして、「トピック・チャット」に必要な三つのスキルのうち、「受ける」と「返す」の練習を行うことができた。また、新出文法事項や既習文法事項を盛り込むことによって、それらの定着を図ることに寄与した。

会話をしている際に生まれる沈黙を減らすために、「平成 27 年度教育研究員研究報告書(中学校外国語部会)」を参考に「会話を継続させるための表現集」を Q&A シートの裏面に掲載した。このことにより、つなぎ言葉等を活用して会話を継続させるための言語活動を目指した。練習開始前は、“Um...”、“Well...”、“Really?” 等の短い表現であっても、「トピック・チャット」で使用できる生徒は 1 年生で平均 1 割程度であったが、学年や生徒の実態に合わせて「Topic Chat のための表現集」を活用するように促し、練習を重ねた結果、これらの表現を使用できる生徒が平均 6 割程度まで増えた。

教科書本文の導入の際、教師によるオーラル・イントロダクションよりも、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図るために、オーラル・インタラクションの形式を採用した。具体的には、教師からの質問に生徒が答えるだけでなく、ピクチャーカードを基に生徒が質問を考え、教師に質問する活動を行った。その結果、教科書本文の内容を推測したり、既習事項を使って質問を発信しようとしたりする意識が高まった。これにより、教科書本文の内容理解も深まり、扱われている内容に関する自分自身の意見や考えを表現する言語活動を充実させることができた。

(2) 「トピック・チャット」、「評価、記録用紙」の開発と実践

上記の活動の総合的な実践としての 1 分間の「トピック・チャット」を継続的に行った。扱う話題としては、教科書本文で扱われている内容に関するものや、時期的なもの（ニュースで話題になっていることや週末の予定やイベント等）、新出文法事項に焦点を当てたものなど、生徒の実態や実施する時期を考慮して行った。本研究では、1 分間の会話を継続させるためにどれだけ多く内容に関する質問を投げかけることができたかに注目した。「質問」と「相づち等それ以外の発話」を分け、それぞれに応じてカードや基石等をペアで取り合うことで発話量と内容の質の可視化を図った。相手への質問を 2 ポイント、それ以外の発話を 1 ポイントと設定することで、より多くのポイントを獲得しようという生徒の意識を刺激することができた。同時に、相手に質問する意欲を刺激することで、結果的として会話の継続を促すことにもつながった。

生徒自らの振り返りや教師によるフィードバックのために、「評価、記録用紙」を開発した。「トピック・チャット」の実践において「言いたかったけれど言えなかった」表現を書き留めさせることで、自ら調べたり教師に質問したりするなど、学習意欲を喚起することができた。授業中にフィードバックを行う場合は、「トピック・チャット」直後に生徒からの質問を受け、板書や口頭練習を行うことにより表現の共有を図った。多くの場合、2、3 程度の表現を共有し、共有直後の「トピック・チャット」では半数以上のペアがその表現を使用する様子を見取ることができた。授業中に回答できなかった表現や取り上げるのでできなかった表現については、当該授業で評価用紙を回収後、次回授業で返却する際に例示することでその後の「トピック・チャット」での活用を促した。

(3) 「会話を継続する力」の高まり

Q&A シートを活用した帯活動、教科書本文を活用した言語活動、そして「トピック・チャット」を継続的に実践することにより、会話を継続させるために必要な三つのスキルにおいて伸長が見られた。下記のサンプルは、無作為に抽出した生徒を対象にインタビューテスト形式で行ったもの（サンプル1）と生徒同士で行ったもの（サンプル2）を、ビデオ等からそのまま書き起こしたものである。

< サンプル1 : 対象 - 第1学年、形式 : インタビューテスト、 Topic : My favorite color >

【9月下旬】		【11月下旬】	
T:	What color do you like?	T:	What color do you like?
S:	I like light blue. Do you like light blue?	S:	I like light blue because I like the sea. Do you like light blue, too?
T:	Oh, yes. My favorite color is blue. Why do you like light blue?	T:	Oh, yes. My favorite color is blue, so I like light blue, too. You like the sea. Do you go to the sea every year?
S:	I ... Uh... I ... like sky's color.	S:	No, I don't. I like sea, but I'm not good at swimming. Are you good at swimming?
T:	Do you like the sky?	T:	Oh, yeah. Yes, I am. I'm good at swimming. I often went to the sea to swim.
S:	Yes.		

< サンプル2 : 対象 - 第2学年、 Topic : My favorite sports >

【9月下旬】		【11月下旬】	
S1:	What's your favorite sports?	S1:	What's your favorite sports?
S2:	It's table tennis. How about you?	S2:	I like table tennis. How about you?
S1:	I like basketball. But I'm on the baseball team.	S1:	I like baseball and basketball. And I'm on the baseball team. What do you like about table tennis?
S2:	Do you play basketball?	S2:	It's fun.
S1:	Yes, I do.	S1:	Baseball, too. Do you play tennis?
		S2:	No, I don't. I'm in the school band club.
		S1:	Is school band exciting?
		S2:	Yes, I do. Is baseball exciting?
		S1:	Of course.

同じトピックでの調査であることにも起因しているが、サンプル1・2共に発話量が増えている。サンプル1ではやり取りの回数（ターン数）がわずかに減少しているが、生徒の発話それぞれにおいて発話量が増え、内容が深まっていることが見て取れる。これは、9月下旬のサンプル調査実施後、対象生徒が『～だから』と言いたい時は、どうすればよいですか」と質問してきたため **because** について指導し、11月下旬にはその使用が見られたことと関係している。サンプル2では、使用する表現の種類及びターン数が大幅に増え、トピックに対する内容の深まりを見取ることができた。どちらのサンプルにおいても、質問を相手に投

げかけることによって、ターン数や発話量が増えていることが分かる。

他の抽出生徒全てにおいて上記のような結果が得られたわけではない。一時的ではあるが、中には発話量が減少する生徒もいた。これは、授業で学習したり辞書等を使って得たりした表現を活用しようとするあまり、1文当たりの発話に要する時間が増加し、1分間で発話する英文の数が減少したためだと考えられる。

2 研究の課題

(1) 変容の見取り方

一斉・少人数指導等クラスサイズにもよるが、机間指導だけでは全ての生徒の会話が実際にどのように行われているかを逐一見取ることができない。生徒の変容を見取るためには、ある程度言語活動を行った後に教師によるインタビューテストを行ったり、会話を録音したりする必要がある。

(2) 会話の内容の深まりと広がり

本研究では会話の可視化のためにペアでカードや基石等の取り合いを行わせたが、会話中は表現することに集中するので、自分の発話が質問なのかそれ以外なのかを生徒自らが判断し、それに応じたカードや基石等が取れるようになるまでには時間を要した。

1分間のうちにどれだけ多くの質問をすることができるかに重きを置いたことにより、相手の発言を受けなくても対話が成立してしまう状況が見られた。つまり、質問を用意した上で相手の発言を待つような状況が生まれた。たとえば、“I like to play volleyball.”という発言に対し、“When do you play volleyball?”や“Where do you play volleyball?”等、内容の深まりや広がり、相手のバレーボールに対する熱意や相手がそのことに関連して本当に伝えたいことを引き出せているのかどうか、という点で疑問が残った。会話の内容に深まりをもたせる手段として、会話を切り出すための1文と最後の1文を設定し、どのように会話を進めていけば最後の1文を発することができるかを考えさせながらやり取りをさせることなどが、改善策として考えられる。

会話を継続するために必要な三つのスキル「受ける」「広げる」「返す」のうち、特に生徒が難しさを感じるのが「広げる」であった。より実際の場面に近い即興での会話においては、内容に関連した自分の意見や気持ちについて表現する手段として、相手に聞き返したりパラフレーズしたりする力を育成する必要がある。普段の授業内容の中に、Q&Aシートを活用した言語活動や「トピック・チャット」のような活動を取り入れると共に、例えば「双眼鏡」という単語を知らない、または思いつかなかった時に、“*The thing that you use to watch birds.*”と既存の知識を活用する表現、“*Do you mean ‘binoculars’?*”と聞き返す表現など、斜字体部分のような慣用表現を使用する機会を多く設定する必要がある。

平成28年度 教育研究員名簿

中 学 校 ・ 外 国 語

学 校 名	職 名	氏 名
品川区立荏原第六中学校	主任教諭	橋浦 光夫
大田区立矢口中学校	主任教諭	丸山 敬子
世田谷区立松沢中学校	主幹教諭	高橋 彩子
世田谷区立深沢中学校	主任教諭	花本 宣広
中野区立第十中学校	主任教諭	井上 智絵
荒川区立第九中学校	主任教諭	太田 真文
板橋区立赤塚第一中学校	教 諭	新井 正秀
足立区立六月中学校	主任教諭	伊藤 雅人
国立市立国立第二中学校	主任教諭	大澤 敬史
福生市立福生第二中学校	主任教諭	◎ 寺沢 陽子

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事 早川 裕之

平成28年度

教育研究員研究報告書
中学校・外国語

東京都教育委員会印刷物登録

平成28年度第142号

平成29年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 株式会社オゾニックス